

- ① 所属名：鶴岡協立リハビリテーション病院(つるおかきょうりつ りはびりてーしょんびょういん)
- ② 協会会員番号：39404
- ③ 氏名：三浦 英夫(みうら ひでお)
- ④ 所属県士会：山形県作業療法士会
- ⑤ タイトル：病院災害支援ボランティアに参加して
- ⑥ 本文：

震災後約 1 ヶ月半経過した 5 月初旬の 3 日間、当病院系列の災害支援ボランティアとして宮城県多賀城市の 2 箇所の避難所でリハビリを実施してきました。今回ボランティアに参加した理由としては、以前福島に住んでおり場所は違うのですが何らかの支援がしたかった事、TV で放映されている被災地の様子が現実の物とは信じられずしっかりとこの眼で見ておきたい、という事がありました。

避難所では、患者様に関われる期間が短い事もあり、Rom-ex やリラクゼーション、傾聴での関りが中心となりました。三日間で 7 人の方と関わったのですが「山形から来たの、良く来てくれたね」などご本人やご家族の方から温かく受け入れて頂きました。私が関わった中でご家族が亡くなった方はいなかったのですが、足元まで水が迫ってきて死の恐怖と向かい合いながら何とか非難してきた体験談、家を失ってしまい今後の見通しの立たない将来への不安等を伺いました。単身で被災地に来られた方も多く声掛けや傾聴が重要と感じました。ライフラインはほぼ正常に戻っており避難所の雰囲気も緊張感のようなものは感じられなかったのですが、床にマット等敷いた上に寝ていたことから肩こりや腰痛を訴える方が多く、長期の避難所暮らしによる心身の疲労やストレスが全体に見受けられた様に思います。

ボランティアの帰りに被害の大きかった被災地を見てきました。当初、ただ見たいという安易な気持ちで訪れて良いだろうかとも思いましたが、現地スタッフの方から「是非、現状を見て行ってもらいたい」との言葉を頂きました。現場では道路はある程度整備されていましたがその周囲は TV で見た通りの凄惨たるものでした。大型の漁船が陸に上がっていたり神社が川の中に沈んでいたりと、全く想像もできない程の威力の津波が押し寄せたのだらうと思います。

今回のボランティアでは普段体験することの出来ない貴重な体験をすることが出来ました。この体験を忘れることがないように今後活かしていきたいと思います。